

平成 28 年度第 1 回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時 平成 28 年 11 月 16 日（水） 14：00～15：20

場 所 いわき市文化センター 2階 中会議室

出席状況 17 名出席：過半数の出席者により会議成立
(市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第 31 条第 2 項)

会 長	大槻 雅彦	出		
副会長	武田 憲子	出		
委 員	梅村 一之	出	運賀 達郎	出
	押手 茂克	出	檜村 郁雄	出
	草野 安治	出	國友 孝子	出
	今野 宏	出	斎藤 七重	出
	坂部 博行	出	鈴木 幸男	出
	高崎 祥子	出	豊田 銀子	出
	根本 富夫	出	根本 宏	出
	吉原 秀治	出		

事務局 ごみ減量推進課課長、課長補佐、計画課係長
計画係員 1 名 計 4 名

- 議 題 (1) 平成 27 年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績について
(2) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について
(3) 平成 28 年度上半期のごみ処理実績について

【資料 1】 平成 27 年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績

【資料 2】 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について

【資料 3】 平成 28 年度上半期のごみ処理実績について

<<会議の成立>>

委員 17 名全員の出席により「いわき市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則」第 31 条第 2 項の規定による過半数を満たしており、会議が成立していることを事務局より報告。

議題(1) 平成 27 年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績について

- ・ 【資料 1】により事務局説明

(梅村委員)

- ・ 主灰・飛灰の発生量に対する資源化の割合はどのくらいか。

[事務局]

- ・ 主灰と飛灰の発生量は、合計で年間約 13,000 t であり、資源化量は合計で年間約 9,000 t であることから、リサイクル率は約 70%となっている。

(梅村委員)

- ・ 残りの 30%は埋立処分ということでよいか。

[事務局]

- ・ 主灰の約 1,560 t は埋立、飛灰の約 2,560 t は仮置きしている。

(梅村委員)

- ・ 組成調査の結果で、製品プラスチックの適正分別率が昨年と大幅に違う理由は何か。

[事務局]

- ・ 前年度までは、汚れが付いたまま排出されているものなどを、適正に分別されているものとして分類したが、汚れが付いたまま排出されたものなどは資源化できないことから、平成 27 年度においては、燃やすごみに分類したため。

(押手委員)

- ・ 汚れが付いたままの製品プラスチックは、洗えばリサイクルできるか。

[事務局]

- ・ 洗えばリサイクルできるものが多い。

(武田委員)

- ・ 民間企業で導入している「B to B (ボトル to ボトル)」のように、ペットボトルを国内で循環させる業者に売却することはできないか。

[事務局]

- ・ 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会に登録している再生処理事業者に売却しており、売却後の利用については把握していない。

議題(2) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について

- ・ **【資料 2】** により事務局説明

(押手委員)

- ・ 「焼却ごみ量の目標を達成するためには、1割以上削減する必要がある」とあるが、組成調査で燃やすごみとした製品プラスチックが正しく排出されれば達成することができるか。

[事務局]

- ・ 製品プラスチックは、燃やすごみと収集頻度や収集量が大幅に違うことから、大きく変化することはない。

議題(3) 平成 28 年度上半期のごみ処理実績について

- ・ **【資料 3】** により事務局説明